

「男らしさ」「女らしさ」

小 六

ふだんの生活の中で「男の子なんだから」や、「女の子らしく」というような言葉をよく聞きます。今まで、私もクラスの男の子に、

「男なんだからがんばって。」
や女の子に、

「その色、女の子らしくてかわいいね。」

と言ったことがあります。はげまそうと思ったり、ほめようと思ったりしたからです。でも私は、インターネットやニュース、学校などで男女差別について学習したことで、私の中で当たり前だと思って話している言葉が知らな

いうちにだれかを差別して傷つけていることもあるということに気が付きました。そのため、今回このテーマについて書こうと思いました。

私は、私の言葉によって傷ついてしまう人がいる可能性があるということを知って、そもそもなぜ、「男の子なんだから」や「女の子らしく」というようなことを言ってしまうのかということについて、改めて考えてみました。

例えば、ある男の子の好きな色がピンクだったとします。これまで私は、女の子がどんな色を好きだと言っても変だと思ったことはなかったですが、男の子がピンクを好きと言うのはなかんだか女の子みたいで変だなど思っていました。それは、男の子なのにはずかしいなと感じているからではないかと考

えました。しかし、よく考えてみると、なぜ男の子がピンクを好きになっただけいけないのか、なぜはずかしいと感じるのか、理由が思いつきませんでした。ただ、ピンクは女の子の色なんだと自分の中で思いこんでいて、それが自分の中で当たり前になり、みんなもいつしよだと思っていました。

私は「みんな同じように選ぶ権利がある」ということが大切だと思います。また、もしかしたら私は、今回のように無意識に決めつけた考えで人を見てしまっていることが多いのではないかと感じました。もし、私とその男の子の立場だったら、ただ好きな物を好きと言っただけで周りの人に理解してもらえず、バカにされたり笑われたりしたら、とても悲しいと思います。「み

んな平等」と分かっていると思っただけ、私はその本当の意味を分かっているのと気付きました。

今回私は、自分に悪気はなくても、無意識のうちの人に對して差別的な気持ちをもってしまったことがあるということに気が付きました。まだ全部を直すことはできないだろうし、これから知らないうちに人を傷つけてしまうことはあると思います。しかし、せめて「男の子なのに」や「女の子なのに」という決めつけた言い方をしたり、人の意見に対して否定的な言葉から入ったりするのではなく、人の気持ちを一度素直に聞いてみようと思います。どうしてその人がそう感じたのか、考えたのか、その人の気持ちになって考えてみることから、近くの人を大切

に
し
て
い
き
た
い
で
す
。